

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名 一般国道20号 下諏訪・岡谷バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 直轄
起終点 自：長野県諏訪郡下諏訪町東町 至：長野県岡谷市今井		延長 4.6 km
事業概要 下諏訪町、岡谷市内には観光資源が点在し、県内・県外から多くの観光客で賑わっている。また、沿道に家屋が密集し、歩道幅員も狭く利用者に危険な状況となっている。本事業は、国道20号（現道）の下諏訪町及び岡谷市街地の交通混雑の緩和と交通安全の確保を目的としている。		
H4年度事業化	H2年度都市計画決定	H6年度用地着手
全体事業費 約440億円		事業進捗率 59.5%
計画交通量 23,100～24,800台/日		供用済延長 2.9 km
費用対効果分析結果	総費用 (H19以降)/（未完成区間全体） 121/132億円 （事業費：110/121億円 維持管理費：11/11億円）	総便益 (H19以降)/（残（未完成区間全体）） 314/314億円 （走行時間短縮便益：292/292億円 走行費用減少便益：10/10億円 交通事故減少便益：11/11億円）
B/C (未完成区間全体) 2.4 (H19以降の残事業) 2.6		基準年 平成18年
感度分析の結果		
事業の効果等 下諏訪・岡谷バイパスの整備を図ることで、国道20号（現道）下諏訪町及び岡谷市街地を通過せずに交通が処理できるため、交通混雑緩和と地域住民の安全性が確保される。		
関係する地方公共団体等の意見 諏訪郡市国道20号改修・バイパス建設促進期成同盟会より、下諏訪岡谷バイパス未供用区間の早期促進要望。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 下諏訪・岡谷バイパス（L=2.9 km）、国道142号バイパス及び県道下諏訪辰野線の3路線を平成16年3月27日に同時供用。長地山の手土地地区画整理事業を平成14年度に事業完了。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在までに2.9 kmが部分供用している。1.7 kmが未整備である。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 未整備区間である下諏訪東町から岡谷市長地鎮2丁目までの約1.7 kmについては、諏訪バイパスの整備の動向や国道142号の改良整備等の進捗を勘案し、今後概ね10年での暫定2車線の全線開通を目指し、計画的に事業を推進		
施設の構造や工法の変更等 工事施工にあたっては、新技術の積極的活用など、さらなるコスト縮減に努めるとともに、工期短縮を図り、併せて整備効果の早期発現を図る。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。